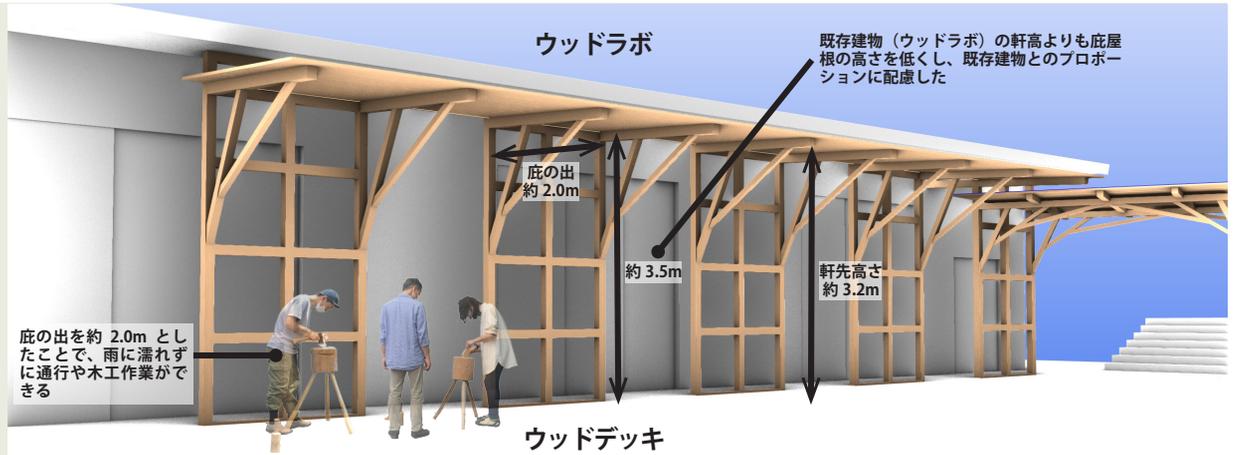


「木立のこみち」2021 自力建設プロジェクト

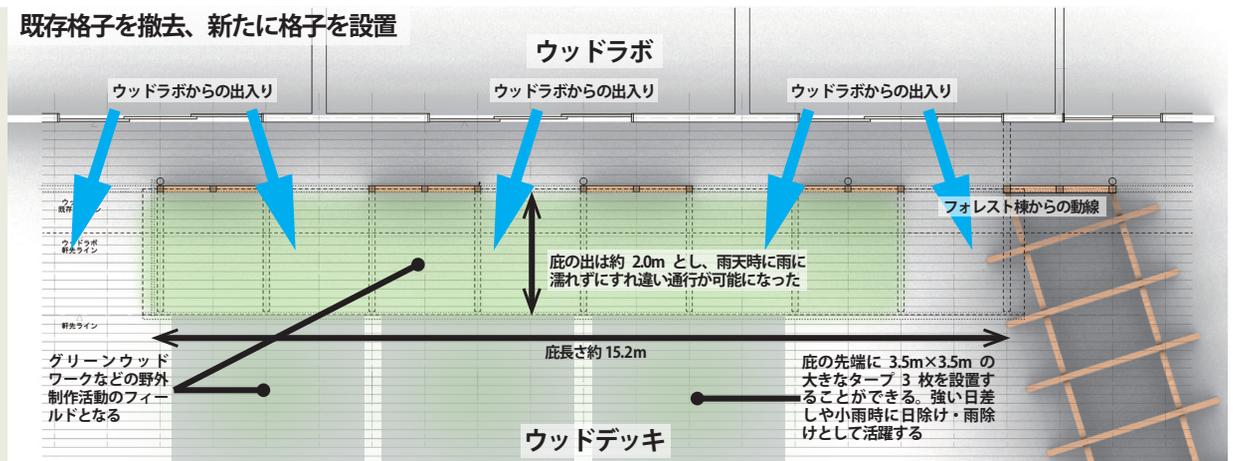
木立の庇

特徴①【樹状柱】



アカデミーの活動に違和感なくなじむようなデザインとするため、「樹状」の形態とした。樹状の柱と格子は5つのユニットとを構成し、増設庇を支える。雨天時でもグリーンウッドワークの野外制作活動ができるよう、庇を増設し2m張り出した。既存の格子を撤去し新たに格子を配置し直したことで、ウッドラボ内への採光が増え、屋内外の様子が見通せるようになった。

特徴②【動線配慮】



既存の格子を撤去し新たに5つの格子ユニットを配置するにあたり、ウッドラボの出入りのしやすさを考慮した。また、既存格子を撤去したことで、大きな家具等の出し入れも可能となった。庇の軒先には3.5m角の特注タープを取り付けることができ、日除けや雨除けができる。これにより、グリーンウッドワークなどの野外制作活動がよりしやすくなった。

特徴③【木組み】



【左上・左中写真】格子の中心の柱を既存の軒下に建て入れ、横材を差し、樹状柱を地組して建て込んだ。格子の角部の仕口には、伝統的な接合方法である「びんた伸ばし」を用いた。【左下写真】方杖の接合部は木構造用ビスを用い強度を確保した。【右上写真】タープ設置時の様子。やわらかい光が心地よい。木工のグリーンウッドワークなどの野外制作時に役立つ。【右下写真】照明設置時の様子。人感センサーで自動点灯する。これまで照明が無く夜間は真っ暗だったが、明るくなった。